

平成29年度 食物栄養専攻2年

資格科目

教育相談(栄養教諭)	01
教職実践演習(栄養教諭)	02
栄養教育実習事前事後指導	03
栄養教育実習	04
栄養教諭活動論	05

教育相談（栄養教諭）

概要

小グループによるゼミ形式でのディスカッションおよび事例検討を交えつつ、教育相談概論、相談技法、発達理論、連携支援等について実践的な理解を深めていく。

担当教員	後藤 真
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	食物栄養専攻2年 栄養教諭
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

教育相談の理論を正しく理解した上で、基本的な相談技法を用いることができる。また、中学生を取り巻く状況を、個人・家庭・社会といった多角的な視点から把握し、事例を詳細に読み解くことができる。

各回の内容

1. 導入
2. 中学生を取り巻く環境と現状
3. 教育相談概論
4. 教育相談の技法
5. 相談者としての自己分析
6. 演習：関係性の構築
7. 構成的グループエンカウンター：セルフ・ケアについて
8. ライフサイクルにおける思春期：「問題」に対する包括的理解と対応
9. 教育相談のプロセス
10. 演習：事例検討
11. 演習：事例検討
12. 演習：事例検討
13. 職場における支援者間の連携と社会資源の有効活用
14. 構成的グループエンカウンター：スーパービジョンについて
15. 教育相談における自己洞察

準備学習（予習・復習等）

授業で配布される自主学習ワークシートに取り組む。また、関連するニュースに関心を持つ。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

授業レビューシート40%、中間レポート30%、期末レポート30%

教科書

なし

参考文献

その都度、授業で紹介する

教職実践演習（栄養教諭）

概要

教育実習に臨んだ結果をふまえて、教育現場で望まれる資質や能力を高めるため、総合的に栄養教諭としての知識と実践力を培う。

担当教員	津田和加子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻2年
時間数	90分×15回
単位数	2

目標

今までの学習の振り返りをし、具体的事例について、不足している知識技能を補完できるような演習を行う。短大2年間で学んだ必要な知識技能を基に、教員としての使命感や責任感などを持って栄養教諭として実践できる能力を修得することができる。

各回の内容

1. 今までの学修の振り返りについて
2. 教職の意義や教員の役割
3. 学級経営について
4. 小学校での校内協力体制と児童とのコミュニケーション
5. 中学校での校内協力体制と生徒とのコミュニケーション
6. 栄養教諭について
7. 特別支援教育について
8. 家庭（保護者）との連携について
9. 個別相談指導（肥満など）
10. 個別相談指導（食物アレルギーなど）
11. 地域との連携について
12. 教材研究 - 学習に合わせた教材
13. 教材研究 - 効果的な教材
14. 教科等の指導力について
15. まとめ

準備学習（予習・復習等）

予習：今までの学修を振り返り自分の課題について整理しておく。

復習：配布プリント等を用いて復習する。レポートを提出する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

ポートフォリオ形式（レポート70%、テーマごとの課題30%）により総合的に評価

教科書

プリントを配布する

参考文献

授業内で随時紹介する

栄養教育実習事前事後指導

概要

栄養教育実習のための事前指導事後指導を受け、書類の書き方や授業案の作成を中心に学ぶ。また、教育実習の成果をまとめ、発表の場を通して学びを深める。

担当教員	津田和加子
授業形態	演習
学期	前期後期
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻2年
時間数	45分×15回
単位数	1

目標

1週間行う栄養教育実習のための事前指導を行い、教育実習から多くの知識および経験を得るための準備ができる。また事後に、実習内容をまとめて発表する（1年生を対象とし授業時間外行う）にことを通して、学びの体験を整理し、深めることができる。

各回の内容

1. 栄養教諭資格取得についてのオリエンテーション
2. 栄養教育実習の心得、栄養教諭資格取得者としての心構え
3. 栄養教育実習での実習内容および評価の方法について
4. 栄養教育実習校依頼手続きおよび書類準備などの指導
5. 栄養教育実習校依頼手続きおよび書類準備などの指導
6. 栄養教育実習についての諸注意
7. 栄養教育実習についての諸注意
8. 教育実習校との打ち合わせ
9. 教育実習校との打ち合わせ
10. 模擬授業と検討
11. 模擬授業と検討
12. 模擬授業と検討
13. 栄養教育実習での問題点の整理・課題（討論）
14. 栄養教育実習での問題点の整理・課題（討論）
15. 栄養教育実習での問題点の整理・課題（討論）
16. 栄養教育実習報告会

準備学習（予習・復習等）

配布プリント等を予習・復習する。栄養教育実習報告会の準備を行う。指導案やレポートを作成する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

振り返りレポート20%、栄養教育実習報告書80%

教科書

プリントを配布する

参考文献

その都度紹介する

栄養教育実習

概要

栄養教諭にとって、学校給食は生きた教材と言われている。その教材といえる給食づくりを「給食管理学外実習」で、体験してきた。それを踏まえて、栄養教諭としての実習を行う。

担当教員	津田和加子
授業形態	実習
学期	通年
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻2年
時間数	集中5日間
単位数	1

目標

小学校において、栄養教諭や担当教諭との連携による1週間の実習を通して、学校現場で栄養教諭として必要な知識と実践力を身につけることができる。

各回の内容

1. 指導教諭等からの説明（学校経営、校務分掌、服务等）
2. 児童生徒への個別的な相談指導の実習の指導、相談の場の参観および補助
3. 児童生徒への教科・特別活動等における教育指導の実習（参観及び補助も含む）
4. 食に関する指導の校内および家庭地域との連携・調整の実習（参観および補助も含む）

準備学習（予習・復習等）

予習：指導案の作成など研究授業の準備

復習：実習報告書の作成

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

教育実習報告書20%、各実習校からの評定80%をもとに評価する

教科書

プリントを配布する

参考文献

随時授業で紹介する

栄養教諭活動論

概要

食に関する指導に関係する法令や学校教育における食の指導場面とそのあり方について学び、栄養教諭の役割及び職務内容を理解する。

担当教員	土屋久美
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻2年
時間数	90×15回
単位数	2

目標

現代の児童及び生徒の食生活に関わる問題を理解し、学校教育における食に関する指導の方法を修得する。これらを通して、栄養教諭としての基本知識・技術を身につけることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 食生活に関する歴史・文化
3. 幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題
4. 栄養教諭の職務内容、使命、役割
5. 発達に応じた食に関する指導と食生活学習教材
6. 食の指導に係る全体的な計画
7. 給食の時間における食の指導
8. 教科における食の指導（家庭科）
9. 教科における食の指導（その他）
10. 道徳、特別活動における食の指導
11. 総合的な学習の時間における食の指導
12. 家庭、地域と連携した食の指導および、食の指導をする上での配慮
13. 指導案作り
14. 指導案の発表・相互批評
15. 模擬授業

準備学習（予習・復習等）

教科書の次回授業内容を読んでおく。配布プリント等の復習をする。指導案の作成・模擬授業発表の準備

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

評価方法

課題および授業に取り組む態度20%、指導案作成40%、模擬授業40%をもとに評価する

教科書

金田雅代著『三訂 栄養教諭論 - 理論と実際 - 』建帛社

参考文献

その都度紹介する